

## 防滑仕上げ

防滑性能は、履物着用の場合のすべり抵抗係数「C.S.R値(乾燥時も計測可能)」と水濡れした浴室床を裸足で歩行した場合を想定したすべり抵抗係数「C.S.R-B値」の2種類があり、それぞれ履物と、表面に介在する水、ホコリ等の要因を取り込んで試験機(O-Y・PSM)で測定し、表3と表4に示す様な推奨値を参考にし評価します。  
 ※O-Y・PSM:東京工業大学で研究開発されたもので、他の試験方法に比べ、人が歩いた時の感覚を最も忠実に数値化できると言われています。

[JIS A 1509-12(陶磁器質タイル試験方法第12部:耐滑り性試験方法)]

2014年に改訂されたJIS A 1509-12:2014よりC.S.R値測定の表面状態(介在物)は、表1に変更になりました。

表1: C.S.R値[滑り片: 1.ゴムシート 2.発泡体シート]

表面状態 (介在物)	a.水+僅かなダスト	一般的にタイルが使用されている場面で多く見られる状態
	b.水+ダスト・砂	JIS A 1454 (高分子系張り床材試験方法)に準じた条件
	c.水+ダスト	JIS A 1509-2008で設けられた条件
	d.その他	受渡当事者間の協定による条件

a. 試験用粉体1-1種、7種と水道水9:1:2000(質量比)

b. 試験用粉体1-1種、7種と水道水9:1:20(質量比)

c. 試験用粉体1の7種と水道水1:4(質量比)

表2: C.S.R-B値[滑り片: ゴム製ノンスリップシート]

表面状態 (介在物)	e.水+僅かなダスト	水濡れした浴室を裸足で歩行した場合
	f.その他	受渡当事者間の協定による条件

e. 試験用粉体1-4種と水道水1:300(質量比)



※タイルが使用される場所・条件(履物の種類、ほこり、砂、水分量)に応じて試験時の滑り片、表面状態(介在物)を組み合わせて実施。組合せの規定は設けられていません(2017現在)。

各商品の数値結果は、詳細な条件を合わせてご確認いただく必要があります。お問い合わせください。

[使用場所ごとの推奨値]

表3: 履物着用の場合の耐滑り性

床の種類	単位空間等	推奨値
履物を履いて動作する床、路面	敷地内の通路、建築物の出入口、屋内の通路、階段の踏面・踊場、便所・洗面所の床	C.S.R=0.4以上
	傾斜路(傾斜角: $\theta$ )	C.S.R-sin $\theta$ = 0.4以上
	客室の床	C.S.R=0.3以上
実際の使用時に想定される範囲内すべての条件が該当		

表4: 素足の場合の耐滑り性

床の種類	単位空間等	推奨値
素足で動作し大量の水や石鹸水などがかかる床	浴室(大浴場)、プールサイド・シャワー室・更衣室の床	C.S.R-B=0.7以上
	客室の浴室: シャワー室の床	C.S.R-B=0.6以上
実際の使用時に想定される範囲内すべての条件が該当		

※日本建築学会『床の性能評価指針』(2015年11月)より抜粋